

会 議 録

審議会 of 名称	令和5年第1回桶川市公共下水道事業審議会
事務局	都市整備部下水道課
開催日時	令和5年5月22日(月) 午前10時から10時45分
開催場所	桶川市役所 402会議室
出席者氏名 (委員)	<p>■ 1号委員：作山 康 白根 勉 檀原 武</p> <p>■ 2号委員：糸井 政樹 仲又 清美</p> <p>■ 3号委員：日野 努</p> <p>■ 4号委員：小川 圭一 木村 尚之 田中二三子 吉田 洋子</p> <p style="text-align: right;">(各号委員ごとに五十音順)</p>
欠席者氏名 (委員)	なし
事務局職員	<p>都市整備部：沖田部長 瀧本副部長 高木副参事</p> <p>下水道課：稲橋副参事兼下水道課長 飯島副課長 山村係長 清水係長 天野主任 根岸主任 高橋主任</p>
事務局補助	なし
会議の公開	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ <input type="radio"/> 不可

傍聴者数	0人
議 題	(1) 桶川市下水道使用料改定の報告 (2) 桶川市公共下水道ストックマネジメント計画（全体計画）の説明
決定事項	

審 議 会 経 過

発言者	発 言 内 容
事務局	<p>1 開会 皆様おはようございます。 ただ今から『令和5年第1回桶川市公共下水道事業審議会』を開会いたします。 私は、司会を担当させていただきます下水道課の山村です。どうぞ、よろしくお願いいたします。 本日はお忙しい中、審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。 お手元に、本日の資料をご用意させて頂いております。 資料の右上に資料1から資料6と記したものがございます。不足がありましたら、事務局までお申し出ください。</p> <p style="text-align: center;">【資料の確認】</p> <p>会議を始める前に、令和5年4月1日で人事異動がございまして、審議会委員でありました荒川左岸北部下水道事務所・木村委員の後任が日野委員となりました。一言ご挨拶をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">【日野委員一言挨拶】</p> <p>ありがとうございました。続きまして、事務局職員も深井主任の後任として、天野主任が配属されましたので一言挨拶申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">【天野主任一言挨拶】</p> <p>それでは、会議に入ります。 審議会条例第5条第2項の規定では、「会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。」とされております。 本日は、全委員10名のうち、10名の委員にご出席いただいておりますので、本会議が成立していることをご報告いたします。 なお、審議会条例第5条第1項の規定に基づきまして、ここからは作山会長が議長として進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、議長として進行を務めさせていただきます。 委員の皆様のご協力をお願いいたします。着座にて進行させていただきます。</p>
会長	<p>まず初めに皆様にお諮りします。本審議会は、条例第5条により原則公開となっております。会議の進行に著しい支障が生じることが明らかであると審議会が認めるときは、この限りではないとなっております。</p>

	<p>ます。本日の審議会は、公開ということでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">【委員了承】</p> <p>ご異議がないようですので、本審議会は公開とすることに決しました。</p>
会長	次に傍聴人について、事務局より報告をお願いいたします。
事務局	審議会条例第5条第4項に規定する傍聴人はございません。
会長	<p>2 議題等</p> <p>それでは、次第2『議題等』に順次入らせていただきたいと思います。</p> <p>はじめに議題等の(1)『桶川市下水道使用料改定の報告』について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【説明】</p> <p style="text-align: center;">「桶川市下水道使用料改定の報告」</p> <p style="text-align: center;">【スライドを使用し説明】</p>
会長	<p>事務局から、『桶川市下水道使用料改定の報告』について説明がありました。何か質問はありますか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議題等の(2)『桶川市公共下水道ストックマネジメント計画(全体計画)の説明』、について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【説明】</p> <p>「桶川市公共下水道ストックマネジメント計画(全体計画)の説明」</p> <p style="text-align: center;">【スライドを使用し説明】</p>
事務局	事務局から、『桶川市公共下水道ストックマネジメント計画』について説明がありました。何か質問はありますか。
委員	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>ストックマネジメント計画、これはもう必要不可欠なことは理解させていただいているのですけれども、今月に入って、震度4の地震が14回、日本全国で発生しているということで、まあ桶川市は津波とか河川の決壊により、市のほとんどが水に沈んでしまうことはありえない場所ですけれども、1番危惧されるのが大地震なんです、東日</p>

	<p>本大震災とか過去に大きな地震がありますが、その時に下水道管とポンプ場というものが、どのような被害を受けた過去があったのか、お分かりになる範囲で結構ですので教えていただきたいと思います。</p>
会長	<p>事務局、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>はい、桶川市で過去に地震が一番大きかったのは東日本大震災の時だと思います。そのときは、幸いにもポンプ場や下水道管路の破損はございませんでした。ただ、電気が止まってしまいましたので、一部のポンプ場が稼働できなくなりました。当時自家発電機が設置してあるポンプ場は9か所のうち3か所だけでした。そのため、発電機を借りなければいけないのですが、震災ですので借りられない。皆さんが想定している人間の手で持てるような発電機ではなく、重量が1トンとか2トンもある大きな発電機を借りないとポンプは回りませんので、それに苦労したことがございました。</p> <p>その後、計画停電の時には、幸い新品の発電機が1台見つかりまして購入しました。予備費で200万円ほどかかりましたが、大型の発電機を1台購入しました。それをトラックに積んで自家発電機がないポンプ場をぐるぐる廻って対応しました。</p> <p>結果としては、施設的な被害はございませんでしたが、今後の対応としましても、停電時の電源確保が一番の課題になってくるかと思えます。</p>
会長	<p>はい、他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>私の地元である末広3丁目の陥没事故の経緯をお話しいただきました。過去に説明いただいたかもしれないのですが、この緊急工事の予算というかも直したので、どれくらい経費がかかったのかということ、幸い市民生活には問題はなかったのですが、今委員がおっしゃったように、例えばもし災害で下水道が止まってしまったときの、防災減災対策というか、使えなくなった時にはどのように災害対応をすることができるのか、教えていただきたいと思います。</p>
会長	<p>では事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>はい、昨年10月に起きました末広3丁目の陥没事故の経緯でございますが、復旧の日数的には相当な日数をかけてございます。初日は陥没原因が分からなくて埋めるだけ、二日目以降は詳細な調査をしました。その後、仮々補修、仮補修、最後は11月に本補修というかたちで資料に記載したように、内側からガラス繊維と樹脂を合わせた材料を硬化させて補修し、一段落しています。</p> <p>今回の現場は、交差点の真ん中になりますことから道路が4方向通</p>

	<p>行止めとなり、多くの交通整理員も必要になりました。経費的にはトータルで650万円ほどかかりました。今年度は、陥没現場のマンホール間、約80mを全線内側からもう一度完全に補強して、リニューアル完成というかたちになります。その費用は約5,000万円見込んでおります。</p>
委員	<p>今回は市民生活にすごく支障があったわけじゃないのですが、議会で質問しましたが、「万が一この下水道管が土砂などで全て埋まってしまったときに、他地区を含めて、多くの市民が下水道を使えないこととなります」と、ご答弁いただいたと思うんですけど、そうなった時に、我々は毎日の生活でどうしたら良いのかなというのが不安なので、そういった事故が起きた時のための災害対策は、どういう方向性があるのかなと思ってお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>日常的な対策としましては、避難所の方にトイレがございますのでそちらを使っていただく。あと仮設トイレ等も防災関係の部署で設置いたします。また、下水道独自の計画としましては、BCP計画というものがございまして、埼玉県を中心に県内の下水道事業団体と協定を結んでおりまして、例えばバキューム車やカメラ調査とか補修関係等を県内一丸となって、桶川市へ応援に入ってくれるという体制を組んでおりますので、ご安心いただければと思います。</p>
会長	<p>はい、他にいかがでしょうか。</p> <p>とりあえずこのストックマネジメント全体計画ということで、一応こういうかたちでまとめる。とくに一番大きいのは絶対条件「耐用年数50年」を前提に結構そのパラメーターはとても大きいので。例えば、私なんか、自宅マンションの大規模修繕の委員長をやっているんですけども、建築の世界では、20年前までは10年ごとに大規模修繕みたいなことをやっていたけど、最近は14・15年ごと。ちょっと下水とはまた違うんですけども。コンクリートなんか100年耐久のコンクリートがある。だから古いコンクリートはこの前も陥没事故があったように、「耐用年数50年」で計算することについて、僕はそれで良いと思うんですけど、なんか現実的には改築費用が年平均11億円かかるんですよ、半分補助金が出るとしても。令和7年から9年の事業開始当初は改築費用を抑えているけど、後半に結構負担残している。いや、むしろ年平均11億円かかるよというのをちゃんと管理することが、相当大きいと思うんですよ。小学校や公共建築のストックマネジメント計画でさえ、また同じような話が出てくるわけですよ。ということは、これはこれで標準的な比較としてやる必要はあるのだが、今後詳細に施設の劣化度を調査したうえでだと思っんですけども、塩ビ管の部分だったら約70年とかね、そういうところを考えると随分違うだろうからね。とくに管路も事業費が高いので、その部分ですよ。僕個人としてポンプはあまりケチらない方が良いんじゃないのかなと個人的には思っているんですけども。ポン</p>

	<p>プってやっぱり定期的に更新しないと急に止まっちゃうので。あとマンホールなんか意外に高いですね。例えば、マンホール蓋も取替じゃなくて、古いのを再利用で、表だけショットブラストをかけて滑らないようにするとか。まあショットブラストは簡単で安いと思うんですけども。それだと、かなり安価で済むような気がするんですけど。どのくらい抑えられるかしっかりやらないと年11億円かかりますと言うと相当大変だと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>会長のおっしゃるとおり、その金額というのは、現在執行している新設工事費に比べるとやや大きい数字になっていると考えています。ストックマネジメント計画の中で実際の数字として出てきている状況であり、先ほど説明した塩ビ管は、コンクリートの管と同じように一律の基準で50年の耐用年数と言われている状況です。技術研修会などで塩ビ管は長持ちすることが、多くの自治体での経験則として情報をいただいている状況です。そうしたことから、想定の話なのであまり期待しすぎないように思うのですが、この管の材質により標準耐用年数の数字が違ってくる可能性があるかもしれませんので、今後施設の点検調査の結果を集約して見直して行きたいと思えます。</p> <p>マンホールの蓋についても、例えばマンホールの蓋の鍵の部分が悪くなってしまった場合には、部分的な補修ができるかなと思うのですが、やはり、車道にあるマンホールの蓋ですと、蓋が割れてしまう位に摩耗して厚みが薄くなっている状況になるので、なるべくマンホールの蓋は交換していかなければならないことが示されている状態です。マンホールの蓋は、管路と違って耐用年数が車道で15年、歩道で30年と言われている状況です。現在では結構年数が経っているも蓋が多く、たとえば職員がマンホールの蓋のガタツキについて確認し使用可能か判断している状況です。今後、マンホールの蓋も管路と一緒に点検を行い、本当に大丈夫なのかを整理していく段階になってきます。今回採用した施設改築のシナリオでは、劣化するスピードと更新するスピードがほとんど一緒であり、費用としては抑えられる年11億円の改築工事を実施することが、まず初めの目標になるのではないかと考えております。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今後の施設改築費用を見ますと、この前ね、下水道使用料を改定したばかりなのに、また改定するのか、という感じですよ。まあ、でも冷静に我々は審議会としては嘘付くわけにはいけないし、客観的に捉えないといけないので、まあ「こういう計算式だと、こうなってしまうですよ」ということが今回報告ですけどね。</p> <p>いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>まだまだ今日は報告ということで、今後、下水道施設の詳細調査をしていくということですよ。</p> <p>特に質問がないということでよろしいですか。</p> <p>昨年度は本当に皆様のご協力により断腸の思いで値上げしない</p>

	<p>といけないね、というような答申をさせていただいて、それもこの不景気の中で、議会の方でも最終的には値上げ、まあ少し答申の時の金額よりもちょっと下がりましたけども、それは当然ながらその方が良いでしょうと思います。近年どんどん電気代など物価上昇という中で、ストックマネジメント計画は必要ですが、値上げの話ばかりするのは非常に嫌だと思うのですけども。長期的に物事を考えるというのはあんまり実際やってなくて、マンションなんかも20・30年はやっていたんですが、耐用年数が60年とか、今100年とか言われていますよね。例えばさっき言った長期修繕なんかでも、結構長期修繕には給排水管というのは入っていないんですよ。なぜかって言うと、今まで長期修繕計画っていうのは20・30年だから、40年後くらいに給排水管のやり替えが必要なのにそれが入ってなくて、それが入ると急に何千万円と高くなりますよね。世の中が長期に物事をちゃんと維持管理するという発想が最近になって建築もインフラも必要だよ、ということが言われてやっと気が付いたんですね。あれあれ結構まずいよ、長期的に考えないと。だからその一環としてこの下水道事業もストックマネジメント計画をやると、いや結構お金かかるんだね、というようなことが分かった、ということだと思うんですけどね。</p> <p>それでは、本日の議題は以上となります。これで本日の会議を終了と致します。</p> <p>なお、議事録の確認は名簿順になりますので、私と白根委員になりますのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは事務局の方にお返しします。</p>
事務局	<p>3 連絡事項</p> <p>作山会長、どうもありがとうございました。</p> <p>最後に、次第3『連絡事項』に移りたいと思います。</p> <p>事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>【説明】</p> <p>「公共下水道事業の啓発活動について」</p> <p>「次回の日程について」</p> <p>次回の審議会は、7月20日木曜日、午後からを予定しております。</p> <p>日程調整のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>会場が決まり次第正式な通知をお送りいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
事務局	<p>4 閉会</p> <p>以上をもちまして本日の桶川市公共下水道事業審議会を閉会いたします。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、長時間にわたりご協力いただきま</p>

	して、ありがとうございました。
--	-----------------

以上